

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 2013年11月11日

**【四半期会計期間】** 第36期第2四半期(自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)

**【会社名】** 青木マリーン株式会社

**【英訳名】** AOKI MARINE CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 西村生久

**【本店の所在の場所】** 大阪市北区大淀南一丁目4番15号

**【電話番号】** 06(6455)7158(代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務部長 新井道弥

(本店業務の一部は下記の場所でおこなっております。)

**【最寄りの連絡場所】** 青木マリーン株式会社 本社  
(神戸市東灘区魚崎西町三丁目4番3号)

**【電話番号】** 078(856)9131(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部次長 河上貴幸

**【縦覧に供する場所】** 青木マリーン株式会社 東京本店  
(東京都江東区亀戸一丁目8番7号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第35期 第2四半期累計期間	第36期 第2四半期累計期間	第35期
会計期間		自 2012年4月1日 至 2012年9月30日	自 2013年4月1日 至 2013年9月30日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日
売上高	(千円)	2,135,024	2,234,866	5,351,977
経常利益	(千円)	4,797	36,430	31,699
四半期(当期)純利益	(千円)	1,261	43,821	15,889
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	2,949,500	2,949,500	2,949,500
発行済株式総数	(千株)	8,450	8,100	8,450
純資産額	(千円)	7,020,201	6,972,422	7,059,853
総資産額	(千円)	7,951,460	7,831,565	8,328,623
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	0.15	5.31	1.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
1株当たり配当額	(円)			6
自己資本比率	(%)	88.3	89.0	84.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	345,967	1,391,427	602,083
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	16,088	1,723	58,634
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	49,974	50,500	50,463
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	4,291,326	4,639,443	3,300,240

回次		第35期 第2四半期会計期間	第36期 第2四半期会計期間
会計期間		自 2012年7月1日 至 2012年9月30日	自 2013年7月1日 至 2013年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	7.76	5.17

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2 持分法を適用した場合の投資利益については、関係会社がないため、記載しておりません。  
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりませ  
 ん。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

以下「第2 事業の状況」に記載している金額には、消費税等は含まれておりません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2 四半期累計期間において、財政状態および経営成績の状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

特に記載すべき事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態

当第2 四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ497百万円減少し、7,831百万円となりました。

主な要因は、現金及び預金が1,339百万円、受取手形が27百万円増加しましたが、完成工事未収入金が1,615百万円、船舶が132百万円、短期保証金（流動資産「その他」）が92百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末に比べ409百万円減少し、859百万円となりました。

主な要因は、未払金（流動負債「その他」）が101百万円、未払費用（流動負債「その他」）が26百万円増加しましたが、工事未払金が428百万円、未成工事受入金が49百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末に比べ87百万円減少し、6,972百万円となりました。

主な要因は、四半期純利益を43百万円計上しましたが、剰余金の配当と自己株式を消却したことにより、剰余金が124百万円減少したことによるものであります。

#### (2) 経営成績

当第2 四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀による金融緩和等のアベノミクス効果が表れ、円安や株高が進展し、輸出の持ち直しや消費マインドの改善が見られるとともに、2020年の東京オリンピック開催も決まり、景気の先行きに明るさが見えてきた一方では、消費税率の引き上げやアメリカの財政問題、中国経済の失速懸念等の不安材料もあり、依然として不透明な状況が続いています。

このような状況のなか、当社は、最も得意とする分野の海上工事や河川や護岸の耐震補強工事等の獲得に努め、業績向上に向けて取組んでまいりました。

この結果、受注高は2,392百万円（前年同四半期比9.3%減）となりました。売上高は2,234百万円（前年同四半期比4.7%増）、営業利益は35百万円（前年同四半期は2百万円の利益）、経常利益は36百万円（前年同四半期は4百万円の利益）、四半期純利益は43百万円（前年同四半期は1百万円の利益）となりました。

当第2四半期累計期間におけるセグメントの業績は、次のとおりであります。

(建設事業)

建設事業の受注高は1,660百万円(前年同四半期比2.0%増)、売上高は1,539百万円(前年同四半期比13.6%増)となり、セグメント利益は91百万円(前年同四半期比584.9%増)となりました。

(海運事業)

海運事業の受注高は731百万円(前年同四半期比27.5%減)、売上高は694百万円(前年同四半期比10.8%減)となり、セグメント利益は93百万円(前年同四半期比34.9%減)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少があったものの、売上債権の減少および減価償却費により、1,391百万円の収入(前年同四半期は345百万円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却による収入があったものの、船舶の改造による設備投資等により、1百万円の支出(前年同四半期は16百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、50百万円の支出(前年同四半期は49百万円の支出)となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期会計期間末残高は、4,639百万円(前年同四半期は4,291百万円)となりました。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2013年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2013年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,100,719	8,100,719		単元株式数は1,000株 あります。
計	8,100,719	8,100,719		

(注) 当社は、親会社である青木あすなる建設株式会社を株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換により、2013年7月29日をもち上場廃止となりました。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2013年8月1日	349,281	8,100,719		2,949,500		2,724,500

(注) 発行済株式総数増減数の減少は、自己株消却によるものであります。

## (6) 【大株主の状況】

2013年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
青木あすなる建設株式会社	東京都港区芝4丁目8-2	8,100	100.00

(注) 当社は、親会社である青木あすなる建設株式会社を株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換により、2013年8月1日をもち青木あすなる建設株式会社の完全子会社となりました。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2013年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,100,000	8,100	
単元未満株式	普通株式 719		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	8,100,719		
総株主の議決権		8,100	

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間までの役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第63号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(1949年建設省令14号)に準じて記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定にもとづき、第2四半期会計期間(2013年7月1日から2013年9月30日まで)および第2四半期累計期間(2013年4月1日から2013年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2013年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2013年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,300,240	4,639,443
受取手形	249,998	277,842
完成工事未収入金	2,606,543	990,555
未成工事支出金	-	561
材料貯蔵品	116,196	126,874
その他	252,438	133,018
貸倒引当金	869	393
流動資産合計	6,524,548	6,167,902
固定資産		
有形固定資産		
船舶(純額)	1,361,145	1,228,518
その他(純額)	336,862	323,757
有形固定資産合計	1,698,008	1,552,276
無形固定資産		
8,104		10,328
投資その他の資産		
投資有価証券	70,810	75,080
投資不動産	3,864	3,864
その他	23,287	22,113
投資その他の資産合計	97,962	101,058
固定資産合計	1,804,075	1,663,663
資産合計	8,328,623	7,831,565
<b>負債の部</b>		
流動負債		
工事未払金	708,147	279,216
未払法人税等	16,003	15,722
未成工事受入金	49,665	12
賞与引当金	39,543	37,284
その他	127,347	221,829
流動負債合計	940,706	554,066
固定負債		
退職給付引当金	237,191	235,034
船舶特別修繕引当金	69,155	64,466
その他	21,715	5,574
固定負債合計	328,063	305,075
負債合計	1,268,769	859,142

	前事業年度 (2013年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2013年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,949,500	2,949,500
資本剰余金	2,724,500	2,724,500
利益剰余金	1,412,046	1,287,962
自己株式	32,382	-
株主資本合計	7,053,663	6,961,962
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,190	10,460
評価・換算差額等合計	6,190	10,460
純資産合計	7,059,853	6,972,422
負債純資産合計	8,328,623	7,831,565

(2)【四半期損益計算書】  
 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)
売上高	2,135,024	2,234,866
売上原価	1,978,104	2,050,056
売上総利益	156,920	184,809
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 154,037	<sup>1</sup> 149,776
営業利益	2,883	35,032
営業外収益		
受取利息	561	2
受取配当金	1,230	1,230
その他	122	164
営業外収益合計	1,914	1,397
経常利益	4,797	36,430
特別利益		
固定資産売却益	-	<sup>2</sup> 15,072
投資不動産売却益	696	-
特別利益合計	696	15,072
税引前四半期純利益	5,493	51,503
法人税、住民税及び事業税	4,232	7,682
法人税等合計	4,232	7,682
四半期純利益	1,261	43,821

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	5,493	51,503
減価償却費	187,671	160,386
貸倒引当金の増減額(は減少)	9,484	476
賞与引当金の増減額(は減少)	4,295	2,258
退職給付引当金の増減額(は減少)	4,773	2,156
船舶特別修繕引当金の増減額(は減少)	11,114	4,689
受取利息及び受取配当金	1,791	1,232
固定資産売却損益(は益)	-	15,072
投資不動産売却損益(は益)	696	-
売上債権の増減額(は増加)	397,176	1,588,144
未成工事支出金の増減額(は増加)	589	561
材料貯蔵品の増減額(は増加)	19,870	10,677
仕入債務の増減額(は減少)	240,478	428,930
未成工事受入金の増減額(は減少)	6,830	49,652
その他	1,001	115,565
小計	350,477	1,399,891
法人税等の支払額	4,510	8,464
営業活動によるキャッシュ・フロー	345,967	1,391,427
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
利息及び配当金の受取額	1,791	1,232
有形固定資産の取得による支出	52,693	25,298
有形固定資産の売却による収入	-	25,942
無形固定資産の取得による支出	-	3,600
投資不動産の売却による収入	34,814	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,088	1,723
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	49,727	49,762
その他	247	737
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,974	50,500
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	279,904	1,339,203
現金及び現金同等物の期首残高	4,011,422	3,300,240
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,291,326	4,639,443

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主な科目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
役員報酬	31,050千円	30,510千円
従業員給料手当	46,678千円	39,600千円
法定福利費	11,170千円	9,999千円
賞与引当金繰入額	6,771千円	5,501千円
貸倒引当金繰入額	9,484千円	476千円

2. 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
機械装置売却益	- 千円	542千円
船舶売却益	- 千円	14,530千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
現金及び預金	4,291,326千円	4,639,443千円
現金及び現金同等物	4,291,326千円	4,639,443千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2012年5月11日 取締役会	普通株式	49,940	6	2012年3月31日	2012年6月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第2四半期累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2013年5月10日 取締役会	普通株式	49,927	6	2013年3月31日	2013年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当社および青木あすなろ建設株式会社との間で締結された株式交換契約および会社法第178条の規定にもとづき、2013年7月25日開催の取締役会において決議し、2013年8月1日付にて349,281株の自己株式を消却いたしました。これにより、自己株式が117,977千円減少し、利益剰余金も同額減少いたしました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	建設事業	海運事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,355,844	779,179	2,135,024
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	1,355,844	779,179	2,135,024
セグメント利益	13,337	143,582	156,920

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	156,920
セグメント間取引消去	
全社費用(注)	154,037
四半期損益計算書の営業利益	2,883

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	建設事業	海運事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,539,886	694,979	2,234,866
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	1,539,886	694,979	2,234,866
セグメント利益	91,351	93,458	184,809

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	184,809
セグメント間取引消去	
全社費用(注)	149,776
四半期損益計算書の営業利益	35,032

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
1株当たり四半期純利益	0.15円	5.31円
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	1,261	43,821
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	1,261	43,821
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,323	8,245

(注) 第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2013年11月7日

青木マリーン株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 井 隆 雄 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 福 島 英 樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている青木マリーン株式会社の2013年4月1日から2014年3月31日までの第36期事業年度の第2四半期会計期間(2013年7月1日から2013年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2013年4月1日から2013年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、青木マリーン株式会社の2013年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。